

## デンマーク・スウェーデン海外研修旅行（2019.6.9～17）

今年度より職員研修の充実を行う一環として、国内外、10日間程度連続宿泊を行い社会福祉施設や関係機関を訪問し、それらの活動実態、管理、運営、経営や法制度の施行状態などを実体験する研修を今後継続的に行う様企画しています。

第1回目として各事業所の希望者9名にてデンマークとスウェーデンへ研修旅行を実施しました。

### デンマーク編

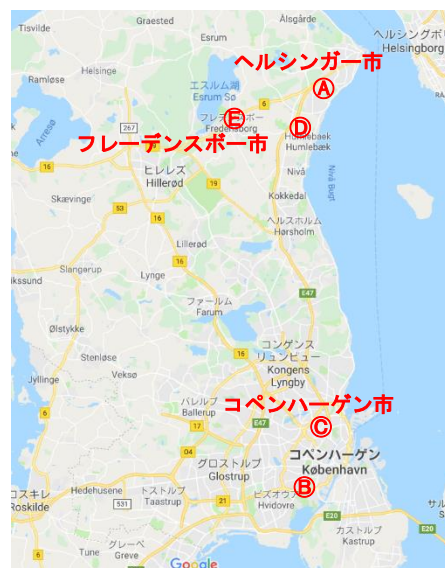
日本からデンマークまで直行便で11時間。コペンハーゲンを中心に、5事業所を訪問しました。1日目、現地は祝日という事もあり市内見学を行いました。首都のコペンハーゲンでは人口が集中。住宅不足で新しい住宅も多く見かけました。

（国土は日本の10分の1、人口580万人、消費税25%、所得税平均45%）



地図データ Googleより

### ホイヴァンゲン労働体験センター(2019/6/11)（ヘルシンガー市）地図 ①



コペンハーゲン市近郊拡大地図

コペンハーゲンから電車とバスを乗り継いで約1時間のヘルシンガー市にある労働体験センター（利用者100人）。木工、テキスタイル、グラフィック等々幅広くメニューがある。デンマークにはSTU（特別に企画された教育）という制度があり18～26才の方対象の3年間の間に社会参加の知識や技能などを身に付ける機会を受けられる制度があり、同事業所付属のカフェへSTUの実習生が来ているとの説明も受ける。障害の有無にかかわらず能力を社会に生かす仕組みが実施されている。4年前に古民家を改装したとてもおしゃれな建物、地域の方、近くの学校の保護者の方が利用されているようでした。

### 特別支援学校ストランドパークスコーレン

#### 学童保育所 KKFO （コペンハーゲン市）地図 ②

(2019/6/11)

コペンハーゲン市に戻り、3つ目の駅で下車、ストランドパークスコーレン学校は1870年（明治3年）設立。

0年生（6才）から9年生（16才）生徒数は95人（うち車椅子利用児は10名、その生徒の為のクラスは2つある。ひとクラス7名）、8時20分始業14時20分終業、保護者のニーズにより7時15分からの預かりもあるとの事。14時20分から16時45分が学童保育を行う。9割位が学童保育を利用。デンマークでは子どもの自立を前提に、保護者、教師やペタゴ等、学校の枠を超えて社会によって教育を行うと考えているように思えました。（ペタゴ：社会教育者、日本の児童指導員、生活支援員に近い。）



**ラヴック余暇活動センター (2019/6/11) (コペンハーゲン市) 地図 ©**



学校から電車とバスを乗り継ぎ小一時間、18時過ぎに訪問。登録者250人国内有数の大規模の余暇活動センター、1963年設立。利用者委員会が運営に関与、自分たちで議論し、決定していくことでクラブに通う意義も高まっていると事、平日18時～22時まで開所、金曜日はパーティを開催。1週間に48プログラムの活動を提供。希望により海外旅行（アメリカ・中国・スペイン等々）を年数回行う。所長は開設当初からかかわり、その情熱、愛情、そしてこれからもという意欲に感銘を受けました。その後、利用者さんと同じ夕食を一緒に、各々利用者さんと自由に交流。19時30分に終了でも周りはまだ明るい白夜でした。

**特別支援学校グリュモゼスコレン (2019/6/12) (ヘルシンギー市) 地図 ⑩**



ヘルシンギー市にある特別支援学校を訪問、普通学校と同じ敷地内にある。チームVと呼ばれ0～6年生74人が学ぶ。最重度の発達遅滞、複合的な障害を持つ子どもも多く通っている。

「認める」教育、自己決定、子どもたちが社会へ進出前の教育、小さいころから少しずつ、意思形成、意思表示を積み重ね、結果子どもたちの将来を豊かとすることを目指す。

医療的ケアについて、胃ろう、経管栄養等、特に医師から訓練無しにだれでもが扱っていることについて少々驚きました。重度重複のクラスも見学、ひとりひとりOT中心に体への取り組みをおこなっていました。「小さな子どもも大人も自己決定が大事と考えられている。それがこの国を形成する大きな力であること。」「自ら選ぶとは自分の人生を決めていくこと。」「意思表示の場面を意識的に作っている。」と日本人教員から、説明されたことが印象に残りました。

**リンデガーデン障害者住宅 多機能型 (2019/6/12) (フレデンスボー市) 地図 ⑪**



フレデンスボー市に移動、近くには王室の夏の住居であるフレデンスボー宮殿がある素晴らしい環境にある。障害者住宅の他デイケア、コミュニティセンター、住宅サポート、STUなどの機能を有しています。少し離れたところにグループホーム（17人）、市内に一般住宅に住んでる方への支援も含め、全部で35名の利用者。建物には広い共有スペースがあり、個室の広さは12畳の広さ。

質疑の中で、職員間で支援に違いがあっても、それを否定ではなく、そうしてみてもいいのか、どう行うのが利用者にとっていいのかを見つけていく姿勢をとる、それが自己のスキルアップのチャンスでもあるとの説明を受け、入居者の尊厳を尊重するところやスタッフのプロ意識も高く素晴らしいことに感心。